

## 『たんぽぽ』

かがくのとも傑作集

平山和子ぶん・え 北村四郎監修

福音館書店 1976年4月



山道を曲って西緑地の入り口にでると、パッと明るい陽ざしが差し込み、野原のそこそこにタンポポが笑っています。緑地のタンポポの、なんと大きく伸びやかなこと！おひさまの光をたっぷり浴びて、すくすくと育っているでしょう。

幼稚園の子どもでも知っている、黄色い野の花、それがタンポポです。野原だけでなく石垣の上にも、舗装道路の割れ目にも顔を出しています。どこにでもあって身近な花ですが、では、タンポポのことを私たちはどの程度知っているでしょう。黄色い、

明るい花、真っ白な綿毛、ぎざぎざの葉っぱ・・・

かがくのとも傑作集『たんぽぽ』を見ると、まずその根の長さにびっくりします。あんな小さな草なのに、見えないところでこんな努力をしているのですね。

そして、黄色い花は、実は小さな花の集まりだとか。小さな小さな花がいっぱい集まって1つのタンポポとなっています。私も子どもたちとタンポポを摘んできて、そんなにあるかどうか調べてみました。数えているうちにすぐに間違えてしまいます。でも手分けして一生懸命数えたら、なんと125個の小さな花がついていました！

もうすぐタンポポも綿毛になって飛んでいくでしょう。この本がタンポポとなかよしになるお手伝いをしてくれれば、とてもうれしいです。

(小川真理子)